

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察速報第2号について

このことについて、病虫害発生予察速報第2号(イネ縞葉枯病)を発表したので送付します。
ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、年々低下傾向にありますが、今後のヒメトビウンカの発生量によっては、発病が多くなる可能性がありますので、適切な防除指導をお願いします。

速報 第2号

1 対象作物:水稲

2 病虫害名:縞葉枯病

3 発生地域:県下全域

4 速報の根拠

平成29年5月に県内14地点の小麦穂からヒメトビウンカの第1世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を簡易エライザ法で検定した。

その結果、保毒虫率は平均0.6%、確認ほ場率は14.3%で、年々低下している(図1~2)、(表1)。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 水稲苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。
- (2) ヒメトビウンカに効果の高い箱施薬剤を施用する。
- (3) 移植直後の水稲へのヒメトビウンカの飛び込みを減らすため、麦の収穫から水稲移植時期までの間隔を、可能な限り長くする。
- (4) 5月下旬~6月上旬移植のほ場では、移植直後からヒメトビウンカ成虫の発生に注意し、発生が多い場合や前年度縞葉枯病が多発生した地域では、本田での薬剤防除を実施する。

○病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病虫害防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



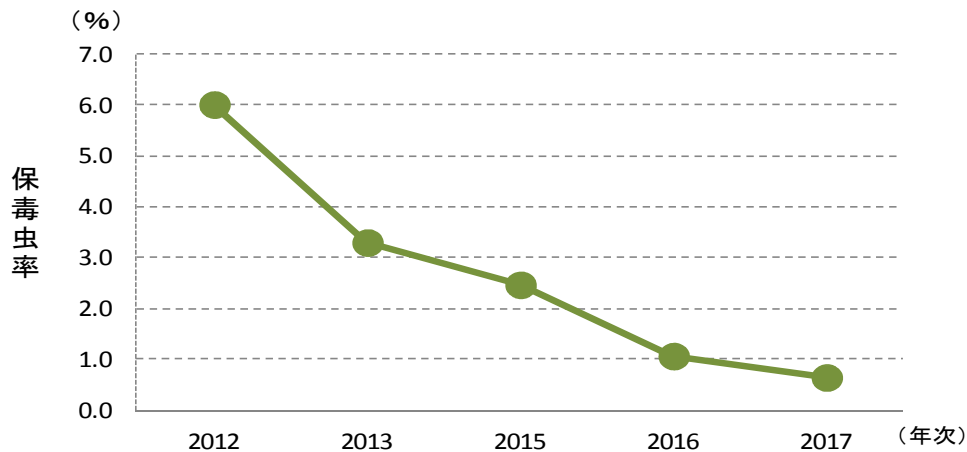


図1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移
(第1世代幼虫：小麦ほ場採集)

表1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率 (2017年：頭、%)

NO.	検定地点	検定虫数	保毒虫数	保毒虫率	
				2017年	2016年
1	糸島市松末	94	0	0	0
2	宗像朝町	94	0	0	2.1
3	筑紫野市山家	94	2	2.1	-
4	筑前町栗田	94	0	0	-
5	朝倉市馬田	91	6	6.6	4.3
6	小郡市力武	94	0	0	0
7	久留米市宮ノ陣	14	0	0	1.1
8	うきは市山北	94	0	0	2.1
9	嘉麻市中益	94	0	0	0
10	糸田町打越	94	0	0	0
11	八女市立野	94	0	0	0
12	大川市北古賀	94	0	0	0
13	柳川市大浜町	94	0	0	0
14	豊前市鳥越	94	0	0	-
平均				0.6	(0.9)

注1) 2016年の - は未検定を示す

注2) ()の値は2017年に検定した地点の平均

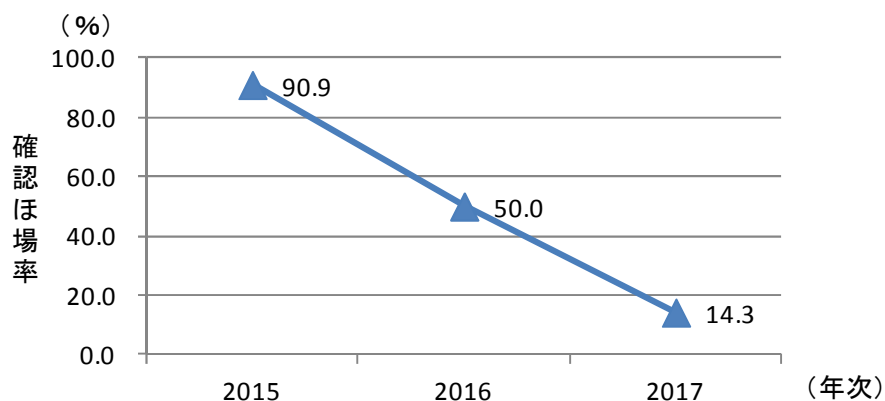


図2 イネ縞葉枯病ウイルス保毒虫確認ほ場率の推移